



# 白ゆり10号発行に思う

西南ゆりの会会長

渋田 壽子

(経経65期)



女子  
同窓会  
発足八  
年目の

二年十一月一日に、「白ゆり」0号(創刊準備号)が発刊されて以来十二年、皆んなで力を合わせ「第

10号」という記念すべき号を発行することができました。皆様と共に喜びましたと思えます。取材し、記事を書いて下さった方々、それを編集し、印刷して下さった方、「ひろば」に投稿された方々、ほんとうにありがとうございました。最近、私がかから、「そうだ、そうだ」と実感できる言葉の一つに「継続は力なり」という言葉があります。これから20号、30号発行

## 10号

西南学院大学女子同窓会  
(西南ゆりの会) 機関誌  
2002年9月1日発行  
発行人 渋田 壽子  
福岡市早良区西新6-2-92  
西南学院大学同窓会内

に向けて頑張っていた、だいたいと思っています。さて、創刊時、一人だった大学の女子卒業生の数も今や二万二千人を数えるまでになつており、在学生の六割が女子学生という時代になりました。

しかし、いざ就職ということになると、「女子学生の就職は、超氷河期だ」と言われた九五年より、ますます不況は深刻になり、入学試験の偏差値は上がったけど、就職となると厳しいものがあります。

そこで、女子同窓生が手を携え合い、互いに応援し合いたいと考え、今年の秋のつどいは、大学の西南会館大ホールで、在校生向けに、「私は就職戦線をこう戦った 先輩キャリアの経験談」をテーマにシンポジウムを計画しました。同窓会は、卒業生の為だけにあるのではなく、大学あつての同窓会です。大学が光り輝いてこそ卒業生も誇りを持てるものです。支え合ういい関係でありたいと願います。

### 第十五回「秋のつどい」ご案内

八六年に母校教授による公開講座でスタートしました秋のつどいもおかげさまで一五回目を迎えました。今まで多くの方々にお支えいただき、コンサート、講演会等開催してまいりました。今回、初めて母校在学生対象に記念のつどいを企画いたしました。女子卒業生の熱いメッセージを、若い皆さんと一緒に母校散策も兼ねお楽しみ下さい。

### 女子卒業生によるシンポジウム

私は就職戦線をこう戦った

〜先輩キャリアの経験談〜

日時 平成一四年一〇月一六日(水)  
午後 三時三〇分〜五時  
会場 西南学院大学内 西南会館大ホール

◆コーディネーター  
・ 納富昌子さん(外英76期)  
RKB毎日放送

◆パネリスト  
・ 占部真美さん(国際87期)  
ノースウエスト航空

・ 重岡美穂さん(外英97期)  
西日本新聞社

・ 西山あきさん(外英98期)  
福岡市役所

・ 加藤力ナ子さん(商商01期)  
JT B

・ 日野祐子さん(法国01期)  
西鉄

◆アドバイザー  
・ 坂井啓 就職課長

\*主催 西南ゆりの会  
\*共催 西南学院大学  
\*後援 西南学院大学同窓会

# スピーチやハンドベルも一役

## 華やかに第四回新春のつどい

(名刺交換会)

多彩な来賓を迎えて

今年で第四回を数える新春のつどい(名刺交換会)を、二月八日(金)午後六時三〇分より、西鉄グラントホテル、カスケードルームにて開催しました。



ハンドベルクワイアの演奏

L・K・シート院長、村上隆太学長など大学関係者や大学同窓会関係者をはじめ、九州大学女子卒業生の会(松の実会)や福岡大学有信会・レディースクラブからもご来賓をお迎えし、多彩な顔ぶれによる華やかな会となりました。

「交流と研鑽を」と会長挨拶

司会は、RKB毎日放送の納富昌子さん(76期外英)が務め、渋田壽子(65期経経)ゆりの会会長が「本学OG同士の交流を深め、お互いに自己研鑽を積みながら、社会で広く活躍していきましよう」と開会の挨拶をした後、村上学長から、「女子学生の増加とともに、キャンパス風景も明るくなりました。私もいろいろな会合に出かけますが、その出席者から、社会の様々な分野で活躍している西南の女子卒業生について聞く機会が多くなりました。西南ゆりの会、今後ますますの発展を願う



スピーチに聞き入る参加者

ています」との祝辞をいただきました。

活躍中の同窓生からエール

懇談の後は、特別企画として、柳原緑さん(63期文英)からお話を伺うことができました。柳原さんは、大学卒業後、KBC九州朝日放送に、アナウンサーとして入社。

その後アナウンス部での一五年の経験を経て、ラジオ制作・テレビ制作の現場を歩き、現在は同社の常務取締役編成局長をされています。

「私の在学中は、女子学生は全体の二割でしたが、現在は六割になったという事で驚きました。マスコミ業界でも優秀な女性が増え、頼もしく思っています。女子の後輩のますますの活躍を期待し、支援にも力を入れていき

たい」と話されました。

スピーチの後、大学宗教部が誇るハンドベルクワイアの美しい演奏が披露され「アメイジング・グレイス」や「いつくしみ深き友なるイエスは」などの清らかな音色に聴き入りました。指揮をされるK・J・シャフナー文学部助教授の曲間のお話も楽しく会場を盛り上げていました。

久しぶりの出会いと賛美歌

約八〇名の出席者は久しぶりの再会を喜びお互いの近況を語り合い、美しく盛りつけられたお料理の数々を楽しみ、目にも耳にも、そして心にも残る充実した時間をもつことが出来ました。最後には、参加者全員で賛美歌「主よみてもて」を高らかに歌い、内海昌子(56期児教)ゆりの会副会長による挨拶で閉会となりました。

女子同窓生の支援ネットワークを充実させるために毎年開催している新春のつどいも、来年は五回目の記念の会を迎えます。この素晴らしい女子同窓生のつどいの輪が、西南学院大学という母校を確たる主軸にして、これからも大きく広がっていくことが期待されています。皆様、どうぞ来年は、大学時代の友人を誘ってお出かけになりませんか。

(文責・古賀敦子)

# 語学力と

## 国際感覚で評価

# 学部は今!

## 「英文学科」

「西南の強み」として誰もが挙げる国際性と語学。この魅力を支える学科のひとつに英文学科がある。

60期の卒業生でもある村上隆太学長を、お訪ねした。「社会での西南の女性に対する評価は実に高いですね。スマートで気が利いていて明るい、というのが一般の方々の印象のようです。特に英語を中心とした語学能力や、身に着いた国際感覚は皆さんの認めるところですよ。」

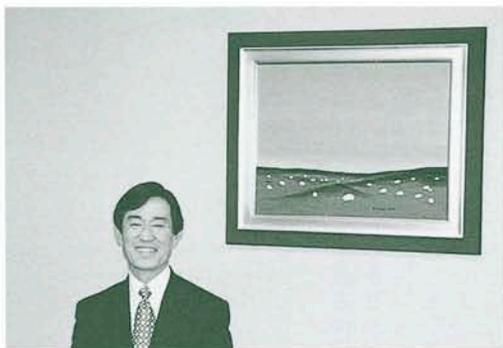
◆ルーツ由来の  
伝統的学科

開学と同時に設置された英文学科は、米国・南部バプテストによって創

立されたクリスチャン・スクールという学院のルーツに深く由来する。

教室では日本語タブーの故A・グレーブス先生の徹底した指導ぶりなど多くの卒業生が記憶に留めているところだが、一昔前の宣教師の先生方による授業は、西南ならではの先進的な光景であった。

近年、文学重視の英文学科といった従来のイメージから、時代を反映して英会話やITなどにも力を入れた実学への傾向も見せてはいるが、なお文学作品の映像化されたものを鑑賞するなど新しいスタイルでの力



ご自身の作品をバックに村上学長

リキュラムの強化が図られている。

の柳原緑さん。諸氏、文化の担い手として地道な活動を続けられているのは誇らしい。

### ◆語学の西南をアピール

九州一円の高校・中学の語学教育の現場を見回せば、いかに外国語学科と共に英文学科出身の英語教師が第一線で重要な役割を担っているかが分かる。確かに最近では、少子化の影響を受け、教師への道も厳しい状況にあることは否めない。それでも、「語学の西南」を実証するように、各地へ英語教師としての人材を毎年、着実に送り出している。

女子同窓会として嬉しいニュースは、82期の宮本敬子さんが母校の英文学科助教授の席に女子OBで初めて就かれていることだ。

宮本助教授は、一九九七年、ニューヨーク州立大学大学院バツファロー校比較文学博士課程を修了し、本学院では、英米文学講義、演習、英米文学論講読等を担当しておられる。我々女子同窓生にとっても期待の星である。

### ◆活躍する卒業生

英語の世界に留まらず、多方面で英文学科OBの活躍はみられる。66期の神田幸子さんは「民話の語り会」を主宰し、語り芝居を各地で上演。「季刊邪馬台国」を長年に渡って刊行されている61期の梓書院・社長田村明美さん。民放界では初めて女性取締役になられ、本誌のハンサムウーマンにも登場されている63期

### ◆英文科卒の学長への期待

学長室でひと際、印象的だった一枚の絵。ラベンダー色の空の下、点在する羊たち。聞けば、学長ご自身の絵筆によるものとか。先生の研究の地がモチーフとなったスコットランドの心象風景なのである。アカデミズムに加え、学長の柔らかな感性をかいま見、私たちの、これからの西南への期待は高まった。

(文責・渡辺ゆみ)

### ●表紙のタイトルバック

今号のタイトルバックのゆりの花の絵は、せっかくのカラ印刷だからということ、田代貞枝さん(57期英文)が腕をふるってくださいました。誌名の「白ゆり」は、無論、会の愛称「西南ゆりの会」にちなんで付けられたものです。ゆりはイエス・キリストを象徴する花ですから、学院の建学の精神にも合った誌名といえます。

さて、田代さんは実物のゆりの花を観察した上で描きたいと、ゆりの花を求めてあちこちの花屋さんを探されたそうです。ところが、どこでもカサブランカやスカシユリばかりが目立ち、いわゆる昔ながらの「白ゆり」にはなかなかお目にかかれなかったとか。そうした苦労の末に出来上がったのがこの美しい「白ゆり」の絵です。田代さん、本当にありがとうございました。

(広報)



# vol. 10 Woman

柳原 緑 さん  
(文学部英文学科 63期)

今回は、文学部英文学科を卒業後、現在九州朝日放送(株)常務取締役編成局長をされている、柳原緑さんをお訪ねいたしました。

✦ 柳原さんが、入学された頃の学院はどんなでしたか？

その頃は、ちょうど60年安保紛争の真っ只中でして、日本中の大学で闘争がありました。私も、先輩たちと一緒に、旗を持ってデモに参加したりしました。けれども、西南の先生方は闘争にも協力的で、授業をまるまる討論会にあててくださったりして、70年代の学生運動とは雰囲気がいちがいに明け暮れしていたわけではなくて、器楽部でピアノを弾いたり、英語劇をやったり、新聞部、社会学研究会にも参加していました。

✦ 勉強の方は大丈夫だったのですか？

二年生のときから本腰を入れて、勉強しました。ゼミは坂本ゼミでしたが、その他にも、心理学の中村先生や英文学の田中先生、山形先生など、素晴らしい先生方に恵まれました。

✦ KBCに入社なさった動機は？

その頃は、女性の就職がむずかしくて、まして、四年制大学を出た女性の就職先は限られていました。その中で、希望通りKBCのアナウンサーになれて、本当にラッキーでした。



✦ アナウンサーは十五年務められたのですね。それから、ラジオの制作に七年、テレビのディレクターを九年務めました。その間に、「モーニング・モーニング」という番組を制作しましたが、これは全国の早朝番組の草分けとなりました。そうして、女性として初めての管理職につかれたのですね。

男女雇用機会均等法というものができたものですから、それ以後、女性の管理職も増えてきましたね。私が女性で初めての部長(広報部長)になりました。

✦ 柳原さんには変な気負いのようなものがあります。自然体でいらつしやるようになりませんか。自然体でいらつしやるような「会社に行くのがイヤだ」という方がおられますが、私は一度も会社に行きたくないと思ったことがないんです。この仕事が大好きで、いつも楽しんで仕事をしていました。

✦ 後輩たちに、メッセージを一言。女性としての甘えがないか、感情的になっていないかと見返ること、そして、広い視野をもって、大局的な見方で、仕事に取り組んで欲しいと思います。

✦ 最後に、これらの抱負を。

民放も厳しい時代を迎えた。その中で、次世代の放送者に残すための道作りと、人材育成に務めたいと考えています。

◆ 柳原さんのお姿は、細くておやかな印象です。けれど、その瞳は力強く、内に秘めた熱い闘志を感じました。

(文責・桑野綾子)

## カトリックの一枚



ランキンチャペルをバックに (S 34年当時)

59期の女子卒業生の記念写真、とても主役の卒業生は最前列の、カーネーションの花を手にしている5名だけ、後ろにいるのは卒業生が集まった1年から3年までの在学生。当時はこんなに女子学生が少なかった？ 同窓会名簿を調べてみると、女子と思われるこの年の卒業生は英文科で約十名ほど、商学部や神学科には女子らしい名前のみあたらないよううだ。当日のお天気は雨？ というのは、右端の学生がレインシューズをはいているから。卒業生も在学生も、無論、全員が揃っているわけではないが、しかし、非常に少なかったのは確か。

(田村明美記)



### ★ヨット部の思い出

私が在学している頃は、ヨット部が強く、先輩に、フィン級のオリンピック級の選手庄崎先輩が在籍しておられました。本機関誌の広報を担当しておられる吉田扶久子さんは、その当時の私のヨット部におけるチームメイトです。

卒業後、私はアメリカ国籍の三九フィートのケッチ(二本マスト)で、太平洋横断レースに二度優勝した事のある、ヨットのクルーとして日本一周を終え、空からアメリカへ渡りました。嵐や凧という大自然との闘いには人との葛藤も無ければ触れ合いもなく、海から見る陸の景色をいつも他岸の

生業と

して眺めていた自分が、人間として社会に何も貢献していない事に気づき、さる縁あって、ポランティアとして、アメリカ人家庭に養子縁組が決まったベトナム人の戦災孤児で小児麻痺の二児をお世話出来る機会を授かりました。アメリカでは、日



## 歴史の町

# ハートフォード

(アメリカ・コネチカット州)

## 内野敏子

(文英 67期)

本語が出来る事が幸いして、小遣い銭稼ぎのつもりで始めた通訳と翻訳が本業になりました。

### ★半導体バルブ工場長として

現在私はアメリカ東海岸のコネチカット州チェシャー市に所在する産業パークの一面に日系企業として半導体用途のガスをコントロールするバルブ各種を製造している工場の工場長をしています。日本人は日本語のおぼつかない日系カナダ人一人を除いたら私一人です。私は州都ハートフォード市に住んで、車で約三〇分のチェシャー市まで通勤しておりますが、日本人の知人や家族には、コネチカット州もハートフォード市もこれぞといった日本人の印象に残るセイルスポイントがなく、悲しいかな、ハートフォード市をニューヨークとボストンの中間にある都市だとだけ説明しております。

### ★ハートフォードに住んで

アメリカ人にとつては、コネチカット州は裕福で緑の多い州です。秋が来ると緑が真っ赤や真っ黄色にメタモルフオゼし、まるでフランス印象派のゴッホの世界に自分が迷い込んだ感じがします。

ニューイングランドの紅葉を観る為にツアーを組んで州外から、バスで乗り入れる団体もいれば、マイカーで訪れる人達は、州一帯に散在する尖塔のある瀟洒なビレッジでアンチイックシヨップ



抜けるような青空の下に展がるハートフォードの町

を散策します。コネチカット州は雰囲気を楽しむ為に訪れる地です。コネチカット川の河畔に建っている高層ビルの私のコンドミニアムのペランダからは河を隔ててコルトビルが見えます。このビルは今では絵描きや陶芸家等のアーティストが集まっているロフトになっておりますが、アメリカの産業革命の先駆けといわれ、ウインチェスター銃と並びコルト銃が製造されたオリジナル製造工場跡です。私のコンドミニアムの側に架かっている橋を渡った所に、アメリカでは一番古い公営美術館といわれるワーズワース美術館があります。

この美術館には、江戸時代ペリイ提督が下田に黒船で寄港した際、コルト銃を徳川幕府に献上しその返礼として、刀を將軍より賜ったという記録が残っております。

オーストラリア人の海外特派員の友人で東京に在住していた私の男友達の一人が、仕事でアメリカへ来た際、ハートフォード市に立ち寄りました。古い話ですが、彼は京都で亡くなったモルガンお雪に関する記事を書いたこともある記者で、ハートフォードに着いた途端に、モルガンお雪に所縁あるモルガン家の墓を見に行こう、と言ったのです。ワーズワース美術館が由緒あるモルガン家の寄付と尽力で開設されたことは知っておりましたが、その一族の墓が、私が元住んでいた美術館の向かい側のアパートの道を隔てた古い墓地の中に隠れてあったとは意外、灯台元暗しでした。

# ひろば

2002年新春のつどい返信葉書より

徳永好子（保専46期・徳永）  
年齢を重ねる度に今日一日あることに感謝  
しております。教会のご奉仕できる事の幸せ  
を感じております。

出口シツ工（保専48期・大野）  
「白ゆり九号」拜見し、ひろばに自分の名を  
見て大変面映く、勇気を与えられ、感謝致し  
ております。

栗本祥子（見教52期  
・飯野）  
浜松に住んで三年目。  
温暖の地で静かに過ごす  
毎日です。東海地方は卒  
業生が少ない様で同窓会  
支部のない事が残念です。  
でも見教科短大一回生23  
名中、毎年15〜17名が集  
い、クラス会を続けて開  
催できる事は喜びです。  
今年は卒業後五十年目で  
母校を訪問できた事、感  
謝でした。

藤原 緑（見教56期  
・岡崎）  
一年中、幼子と共に遊び、忙しく忙しく過  
ごしています。子供たちから明るい元氣な英  
氣をもらい頑張っています。

野田光子（見教56期・藤田）  
見教で学び幼稚園で体験した「学ぶ」とい  
う部分を楽しんで継続できる教育の場に生か  
したいと努力しております。

定由憲子（英文56期・池田）

大学生の頃を思い出して大変嬉しく楽しく  
読ませて頂いております。昨年四月三重県四  
日市から東京都町田市に転居致しました。福  
岡から段々遠くなりますが同窓の皆様のご活  
躍に負けずに新しい事にも挑戦して頑張りた  
いと思います。

筒井則子（神57期・渡辺）  
今年も世界に色々と盛沢山の事が起こりま  
した。私の上にも家族の上にも：孫が三人に  
なりました。二〇〇二年には私も七十歳にな  
ります。すばらしい人生を生きています。感  
謝です。

継 千穂（英文59期・江淵）  
在宅高齢者の援助活動のコーディネーター  
に携わっております。西南で学ばせていただ  
いたボランティア精神が役立つっていると思  
います。西南は私の宝物です。

池田仁子（見教62期・神武）  
高卒八年ブランクがあつて卒業しているの  
で68歳です。今は春から秋、室見川河畔を早  
朝六時よりウォーキングしています。

白井紘子（英文63期・阿比留）  
西南を卒業し、もう随分長い年月が過ぎま  
した。ゆりの会の会報を拜見すると学生時代  
に戻ります。「新春の集い」ゲスト柳原みどり  
さんは同期の優秀な方でした。数年前一度山  
形先生が来福の折、お目にかかりました。私  
は相変わらず絵を描いています。

村田三恵子（経営63期・松本）  
還暦を過ぎて尚、生涯学習。そして仕事で  
は生涯現役を守ってこつこつ女性らしくたく  
ましく元氣に歩いていっています。

帆船卓佐子（英文66期・今村）  
昨年は久しぶりに学生気分を味わう事が出  
来ました。現在逆の立場にいますので、これ  
からも時々この雰囲気を楽しみたいものです。  
久しぶりの方にもお会いできずと若い方と  
もお知り合いになれてとても楽しい一時を過  
ごしました。

大村啓子（英文67期・相馬）  
保育士資格を目標に現役の学生と一緒に勉  
強しました。大学卒業後35年ぶりの試験で緊  
張しましたが、福岡県での保育士資格試験に  
無事合格しました。八科目の試験科目で実技  
試験が難しかったです。

小田切てるみ（見教68期・天本）  
今の仕事（津屋崎中央病院介護職）につい  
て6年。かなりハードな仕事ですが接遇の心  
得を忘れない様、患者さんの心のケアが出來  
る様努力していこうと思つています。

永谷美智子（英文72期・亀永）  
昨年末、7年振りのクラス会を急に思い立  
ち、それでも9人集つたのです。平成十四年  
四月七日同級生が支配人をしてる佐世保の  
弓張の丘ホテルに一泊二日。  
桜の美しい時期の再会を決めました。卒業  
して三十年。元氣が何よりとなりました。

田中美奈子（見教73期・太田）  
現在三人（大学生二人・小学生一人）の母  
親として幸福に暮らしています。保育士の資  
格を生かして近所の保育園に臨時職員として  
行つています。又、ヨガ教室の助手をしてい  
ます。自分の生きがいを感じながら感謝の毎  
日です。

黒岩田希子（外仏73期・古野）  
この様な時代、家族の幸福と共に世界の  
人々の平和を念じないわけにはいきません。  
昨年は様変わりしたキャンパスで大学の公開  
講座に参加し、有意義な時間を過ごさせてい  
ただきました。

奥園子工子（外仏74期・久保）  
成人した二人の子供と小学生・幼稚園の合  
計4人の子供に恵まれ、まだまだ子育ての  
まつた中にいます。健康の為、楽しみの為、  
月2〜3回のママさんバレーと自転車での買  
い物をしています。家庭では天然酵母のパン  
を18年間焼き続けており、たまに人に酵母を  
分けたり、パン作りを教えたりしています。

江崎俊子（法律76期・高木）  
西南の友人の紹介で今年の夏からパートに  
出ています。二十年ぶりの社会復帰です。  
新しい職場での年の離れた後輩、新しい友  
人の子供さん達が西南に入学、この広がり、親  
近感。みんな西南のおかげです。  
『西南つながり』に幸あれ！

渡邊さと子（外英77期・藤瀬）  
十四年前に主人の転勤で福岡に戻つてまい  
りました。二年半程、大学の事務の仕事をお  
手伝いさせて頂きましたが、ふた昔以上にも  
なる我が青春のキャンパスライフを懐かしみ、  
我が子と世代の若い鋭氣に刺激を受けました。  
時代の流れとはいえ、一号館前のロータリー  
がなくなつたのはとても残念です。

村松悦子（外英78期・米川）  
近所に温泉がオープンしました。都会の温  
泉では趣に欠けますが、年と寒さにはかない

ません。やみつきになりそうです。

◆ 小山千鶴子 (児教78期・西島)

来年は子供達が高校・大学となります。月日の早さを感じています。「白ゆり九号」のひろばに自分の文らしきものが載っていて驚き！二年前のことですが、知人友人が目に残めてくれると嬉しいですね。

◆ 谷崎登志子 (外英83期・岡本)

自宅で英語教室をしながら二人の息子を育てています。長男は今年第一希望の西南中学一年生になりました。親子共々、西南が大好きです。

◆ 横田智子 (外英84期・三井)

8才と5才の子供相手に賑やかな忙しい毎日を送っています。同期の友人達も目下子育てで忙しくなかなか会えません。

◆ 山田圭子 (外英91期・藤田)

結婚して東京へきて早三年目です。西南はいつでもたくさん楽しい思い出詰まった私の心の故郷です。東京でもゆりの会を是非開催して欲しいと思っています。

◆ 北野朋子 (児教93期・川口)

本年八月二十二日をもって、八年間勤務しました早緑子供の園を退職致しました。九月に第二子を出産し、子育てに励む毎日です。

◆ 川添陽子 (児教93期・別府)

仕事と子育ての両立は大変ですが、夫にも協力してもらい頑張っています。先日西南大学の学園祭に家族で行きました。心が十年前にタイムスリップした様で楽しかったです。

2001年度収支報告

1. 収入の部 (2001年4月1日～2002年3月31日)

項目	収入額	備考
繰越金	3,953円	平成12年度より
同窓会補助金	400,000	西南学院大学同窓会補助金
講演会会費等	395,000	新春のつどい 会費5,000円×56名 お祝い金115,000円
ミニサロン会費等	69,000	会費1,000円×59名 お祝い金
記念講演会基金 取りくずし	409,868	平成12年9月 ゆりの会15周年記念 講演会収益金より
寄付金 取りくずし	300,000	ゆりの会への寄付金より
雑収入	93	普通預金利息
収入の部合計	1,577,914	

2. 支出の部

項目	支出額	備考
講演会等費	481,276円	新春のつどい、西鉄グランドホテル パーティー費
ミニサロン費	86,327	料理代、講師謝礼、資料代等
講師謝礼	40,000	ハンドベル出演御礼等
慶弔渉外費	61,000	お祝花代、他大学パーティー出席 広告代等
通信費	347,635	会誌「白ゆり」及び秋の集い案内状 発送、ミニサロン案内ハガキ発送等
印刷費	324,025	「白ゆり」案内状印刷費 封筒作成等
会議費及び 事務所費	73,935	役員会、事務所費
特別費	142,000	サラマッポ会寄付等
雑費	4,912	フィルム代、事務用品等
繰越金	16,804	平成14年度会計へ
支出の部合計	1,577,914	

2001年度 西南ゆりの会事業報告

(2001年4月1日～2002年3月31日)

- 西南ゆりの会総会  
2001年6月8日(金)  
会場 ソラリア西鉄ホテル
- 西南学院大学同窓会総会  
2001年6月8日  
積極的に参加する  
(ゆりの会総会と同日、同会場)
- 第25回ミニサロン  
2001年10月13日(土)  
講師 上垣 彰教授(経済学部長)  
テーマ『国際社会と日本そして日本の女性』  
会場 西南学院大学 1号館
- 西南ゆりの会広報誌「白ゆり」第9号発行  
そして発送
- 第4回新春のつどい(名刺交換会)  
2002年2月8日(金)  
会場 西鉄グランドホテル
- サラマッポ会支援  
(フィリピンの女子学生に奨学金)
- 役員会  
定例・月に一回(昼と夜を交互に)  
その他必要に応じて  
名簿整理・発送作業等 随時
- 各委員会  
必要に応じて

●サラマッポ会について

サラマッポ会(フィリピン・日本国際教育里親運動の会)は、フィリピンの学生に奨学金を呼びかけて、一九八二年に誕生しました。フィリピンを旅行中の日本の一女子学生が「コーヒー代を少し節約するだけで、経済的理由で進学をあきらめている、有能で向学心に燃えたフィリピンの学生の支援ができる」ことに気づいたのがきっかけです。この二〇年間、サラマッポ会が送り出した卒業生の総数は一七七三名に上ります(二〇〇二年度の在籍者数は七八一名)。

西南ゆりの会でも、一九九二年から、女子大学生一人を支援(年間五万円)することを決め、既に二名の学生の卒業を助け、現在は三人目の Buen, Marisha さんを支援しています。

皆さま方から寄せられているカンパ金もこの奨学金に使われています。なお、サラマッポとはフィリピン語で「ありがとう」の意です。プエンさんに励ましのお手紙など(日本語可・事務局で英文に翻訳)送ってあげてください。奨学生との直接の文通は禁じられていますので、左記の日本側事務局宛にお願いします。なお、使用済みのテレホンカードや書きそこないのハガキも歓迎のこと。換金して事務費に当てたいそうです。

事務局 ☎ 一〇八・〇〇七四

東京都港区高輪四・七・一カトリック高輪教会内

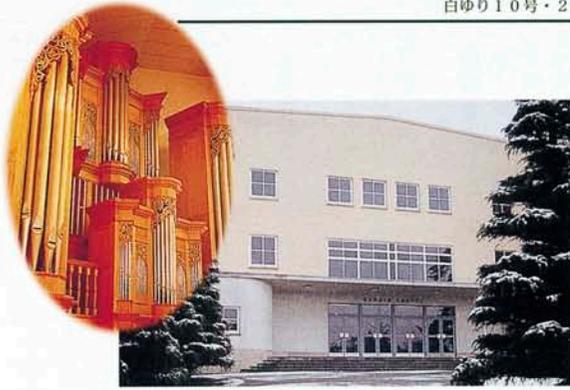
TEL ☎ 三・三四四一・四〇四〇

(文責・田村明美)

# ランキンチャペル 建て替え計画進む

西南の卒業生なら誰しも一度は足を運んだチャペル。五十年を経て、老朽化が進み、建て替えの計画が進められています。

大学によれば、建て替えは二〇〇五年度に計画されており、西南学院創立九〇周年の二〇〇六年には、新しいチャペルがお目見えします。



ランキンチャペルとパイプオルガン

れる予定で、パイプオルガンはもちろん、チャペルにふさわしい外装、内装、機能にする他、コンサートや講演会などにも利用できるように、音響効果、舞台装置などの機能も兼ね備えた施設になる予定です。

以下に現在のランキンチャペルの由来を簡単に『M・セロン・ランキン』J・B・ウエザース・ブーン著、八田正光訳より、ひも解いてみます。

## ●ランキン記念チャペル

西南学院は、南部バプテスト連盟外国伝道局に、チャペルの建設資金援助を要請したところ「チャペルは、教育上、極めて重要」との考えから、異例措置として申請額を2万ドル以上上回る、九八、二五九ドル八九セントが送金されました。この端数の金額は、南部バプテスト教会の毎年のクリスマス時の一人一人の貴重な献金の証であることを物語っています。

又、チャペルの名称は、戦中戦後西南学院のために物心両面において支援尽力されたランキン氏を記念して名付けられました。

一九五四年、九月竣工。当時福岡市で千名以上収容できるホールは渡辺通りの電気ホールのみで、このチャペルは一五〇〇席の大講堂として広く学外の行事、コンサート、講演会等にも、用いられました。

(文責・山内律子)

## ●カンパのお礼とお願い

当会はいわゆる固定の会費徴収を行わず学院同窓会からの補助金(年額四十万円)で運営されています。経常の活動費、秋のついでやミニサロン等の行事関係の諸費用、白ゆりの制作費、郵送費等、補助金だけではとうていまかないきれないのが現状です。そのような中、皆さまからのカンパ金のおかげでこうした活動が続けられていることを思い、ここにあらためて厚くお礼を申し上げます。

そのような事情で、本年もカンパを切にお願いする次第です。お志のある方は同封の振替用紙で一口千円(何口でも)お振り込み下さるようお願い申し上げます。なお、昨年度カンパして頂いた方のお名前を感謝とともに記させていただきます。万一手違いのためにお名前が洩れている方がいらっしゃいましたら、ご一報下さいませ。よろしくお願い致します。

郵便振替番号 01710-9-85645 (西南ゆりの会)

## ●カンパ協力者のお名前

青山容子、赤岩喜代子、秋根由美子、安西忍、井口紀子、石神美代子、井出裕子、井原絹江、岩尾豊子、岩切裕子(内海ここのも)、内海昌子、大橋加代子、岡悦子、岡田ヒロ子、岡部葉子、岡村裕美、柏木律子、嘉村理実、河内光子、北原明子、日下部千春、草場久子、楠原町、黒岩田希子、桑野綾子、古賀三工、古賀敦子、佐藤比佐子、佐藤弘子、洪徳子、白井絃子、白石浩子、杉和美、高丘和子、高野かおり、高松千博、高松伸子、高尾征子、高山和代、田中京子、田村明美、辻隆子、出口シヅエ、寺嶋佳都子、寺岡峯子、土井光子、中里利子、中島信子、永谷美智子、中野和子、中野茂代、中村美和子、中村さとみ、野口みどり、野尻美南子、野副信子、野田光子、濱野礼、原岡晴子、平野圭子、藤木規美子、藤沢侑子、星出真枝、星子孝枝、真島志司子、松本京子、三矢順子、宮崎朝子、宮崎孝子、宮崎政江、宗像美穂、森憲子、森藤峰子、柳原緑、矢野多美恵、山内律子、山崎美知子、山田啓子、吉田敏美、吉田扶久子、吉武美智子、米多比喜代子、鷺坂昭美

(敬称略)

(会長 洪田壽子)

## 掲示板

### 橘フィル定期演奏会のご案内

西南管弦楽団OBで結成している「橘フィルハーモニーオーケストラ」が、来年6月15日にアクロスシンフォニーホールにて、第二回定期演奏会を行います。

曲目は、  
モーツァルト 歌劇「魔笛」序曲  
グリーグ「ペールギュント」組曲  
ベートーベン「交響曲第五番 運命」です。  
皆様のご来場をお待ちしています。

(ピオラOB 桑野)

### ●編集後記

初めてゆりの会のお手伝いに加わり、多才な先輩方に囲まれ、あらためて西南の歴史、西南スピリットを学んでおります。(山内)

20年程前の渡田会長との出会いが縁で、西南ゆりの会の10周年記念誌の編集に携わることになりました。広報委員の皆さんの暖かい心遣いの中で、楽しく参加させていただき感謝しています。同窓がいいですね。もっと「ゆりの会」の輪が広がりますように！

(井原)